

さんの後にかくれます。

それからだん／＼暑くなつて来るとお池では笹舟競争が始りますよ。僕はその舟に乗つてみたたくてあまり楽しんでしたけれど僕が乗つたらお舟はきつと早く走れないでせう。だから我慢して見て居ました。夕方近くになると雀のチユン子さん、チユン吉さん達が水遊びにお池にやつて来ますよ。チユン子さん、チユン吉さんは、いつも羽をバタ／＼やつて水のとばしつこを遊ぶのです。チユン吉さんの方が大抵勝つてしまひます。チユン子さん達は時々鳥のカン太郎さん、カア子さん達を連れて来る事があります。水のとばし合ひをする今度はカン太郎さん、カア子さんの方がチユン吉さんをまかしてしまふんですよ。カア子さんはいつだつたか一度お友達を澤山連れて来ました。眞黒なお友達なのでお池はすつかり黒く見えました。そして遅く迄プールごっこをして遊んで居ましたよ。さう／＼こんな事もありました。

これは赤とんぼさんから聞いたお話ですから秋でせうね。このお庭の向ふの方は廣い／＼野原なのですつて、それで赤とんぼさんのお家もその野原の中にあるさうですよ。野原の眞中には大きな池があつてとてもきれいですつて。夜赤とんぼさんが「お休みなさい」をしようとする時になると、お月様がこの池に遊びにいらつしやるさうですよ。時々はお供のお星様もお連れになつて。僕はお月様におめにかゝりたくてたまらないので毎日お祈りをして居ます。「お月様、さうぞ此處のお庭のお池にも、お遊びにおいで下さいませうよ。」つて。でもまだ一度も来て下さいませぬ。若しかしたら此處のお池は小さすぎるのかも知れません。

僕がかうして待つて居る中に随分たつて急に空から白い粉の様なものが澤山落ちて来ました。「あ！お月様からのお手紙かもしれない」僕はさう思つて手を伸ばして取らうとしました。でも一つとれませんでした。「一體どうしたのだらう」僕は一生懸命考へました。若しかしたらチユン子さんがすつと前にお話して下さつた雪といふものかも知れない。「さう思つて翌日チユン子さんにきて見たらやつぱりさうでした。雪つてきれいですね。眞白でも随分冷いものですな。机さん、椅子さん引出しさん達はまた見たことがないでせう？本當にきれいですよ。そしてね、雪は：

× × ×

鍵穴さんがもつと／＼續きをお話しようとする、急に廊下の外でコソ／＼／＼と音がしました。「アツ大變だ、戸さん、早く戸をしめて。窓さんも早くしめて下さい!!大變だ、鼠さんがやつて来る。」黒板さんは大きな聲で叫びました。皆も一目散にもこの場所に戻つて行きました。それでどう／＼面白かつた鍵穴さんのお話も途中でやめになつてしまひました。

でもいつか又きつと續きをして下さることでせう。

皆さんも御一緒にそれを待つて居ませうね。——終——

### 繪のお帳面

宮原 恭子

照子さんと正子さんと裕子さんは三人共お繪かきがとても好き

で直ぐお帳面をかゝへて行つてはお机の前で繪を描き始めるのでした。だからお友達のお抽出にまだお帳面が一冊しか入つてゐないのに照子さんと正子さんと裕子さん達のお抽出の中にはもう二冊になりました。それで照子さん達三人の持つてゐるお帳面達は「私をよく使つて下さるいゝお嬢さんだなあ」と何時も喜んでゐます。

照子さん達はこんなに澤山繪を描きますが、大抵は自分が前にかいた繪をあまり見直した事ありませんでした。此の間も何時ものやうにお帳面をお机の上のせて繪を描かうとした時にお窓からスーと風が吹いて来てハラハラと表紙がまくれてパツと開きました。それは赤と緑とでお帳面一杯にぬられた賑やかな繪でした。「おや！」照子さんはもう一度よく見ましたが、たゞ赤いお花と緑の葉つげだけが分つて何の花だか分かりません。もつとよく見ますと紙の端に先生が「チューリップの花」と鉛筆でお書きになつてゐました。「あーら、チューリップだつたのね」照子さんはやつと分かりました。一人でその繪を縦にしたり横にしたりして「可笑しな繪」と獨り言を云ひ乍ら仲のよい正子さんを呼びました。「正子さん」「なーに遊んでゐた正子さんはすぐにとんで來ました。照子さんはその繪を見せて「これチューリップですつてよ」と笑つて話すよ正子さんも「えゝ、これが？」と呆れてゐましたが、暫くして「面白いのね、これ始めから見ない？」「えゝゝ、それがいゝわ」、二人はお日様のよく當るお庭で照子さんのお帳面を始めから一枚一枚見たのです。するともう照子さんの忘れてしまつたやうな、始めて幼稚園に入つた頃の繪が澤山お帳面にしまひ込まれてあり

ました。さつきの赤いチューリップの次には種木鉢に植えた黄色いチューリップと大きなお日様とが出て來ましたが、そのチューリップもちやんと見ないと何だか黄色い勳章のやうに見えました。それから又きつと照子さんが汽車に乗つて遠い田舎のお祖母様のお家へ行つた時のでせうね。黒い箱のやうな汽車が五つ繋がつてその汽車のお窓から照子さんとお祖母様とが覗いてゐました。それを見て照子さんは急に「この汽車に機關車がないのね」「照子さんの」と正子さんが面白さうに「まあ機關車がないのね」「照子さんの汽車には機關車があるない」とふしなつてて唄ひました。二人は笑ひ乍ら次をまくつて今度はどう／＼ふき出してしまひました。それは照子さんが自分の洋館のお家を描いたのでしたが、今見ると丁度犬の小屋位にしか見えなかつたのですもの、二人は「面白いわね、面白いわね」とお顔を赤くして笑つてゐたが、照子さんは「正子さんもお帳面を持つてらつしやいよ」と云ひました。正子さんも早速お帳面をもつて來ました。「今度はあなたのを見ませうね。」と二人で正子さんのを開きました。正子さんののもやつぱり一番始めは照子さんと同じやうなチューリップが描かれてゐました。でも正子さんの方が照子さんのよりも幾らかチューリップらしく見えました。「同じね」と云ひ乍ら次をくりました。そこには地面に松のやうな大きい木と何か可愛いお花とが生えてその上に真赤なお日様がキラ／＼と輝いてゐました。尙めくつてゆく中にお人形も出て來ました。おかつげでお目々がくる／＼し櫻色の頬をした元氣さうなお顔をしてゐました。だけぢお體とお手々どがどても小さくて何だか頭とあんよとだけが歩いてゐるやうに見え

たので二人は之を見乍ら何時迄たつても笑ひが止りませんでした。照子さんは「正子さんのお人形は頭とあんよのお人形」とふしをつけて云つたので又尙更笑ひ出してしまひました。やつと笑ひが止つたので二人は「今度は二人のを一しよに見ませうよ」といつて次を開けました。すると照子さんのものと正子さんのものも二人共片假名で「久米川の遠足」と書いて、照子さんは木の一杯茂つてゐる林を描いてゐましたし、正子さんのはお友達と大勢で遊んでゐる繪でした。が、照子さんは何時こんな所へ来たのかすつかり忘れてゐたので不思議さうに聞きました。正子さんは暫く黙つてゐましたが「さう〜づつと前お友達と先生とそれからお母様と行つたわ、ほら〜歸りがけ照子さんと一しよにタンポ、を摘んで、ほらさうでせう。」と正子さんも忘れかけてゐたのをやつと思ひ出してお話しました。それでも照子さんは少しも頭に浮んで來ません、二人共手が止つたまゝで、正子さんは照子さんにぞん〜「ほらね原つばで蝶を追つかけたでせう……それから皆でかかつこもしてね」と話してゐました。すると「次を早く〜」と直ぐ近くで大きい聲がしました。二人はびつくりして振り向くと、それはさつきから後から首を出し乍ら照子さんと正子さんと一しよになつて繪を見てゐた裕子さんだつたのです。「誰かと思つたら裕子さんなのこゝへいらつしやい」と二人は裕子さんを見上げました。「ええ、さつきからあま面白さうだつたから何かと思つて見に來たけどほんどに照子さんと正子さんの繪つて可笑しいのね。」「あら私達のばかりぢやないのよ、裕子さんのだつて可笑しいのこ」とよ、お帳面の始めの方を見て「あら、きつとさうよねえ。」と照子

さんも正子さんも顔を見合はせて云ひました。裕子さんは「さうかしら。あ、私も持つてくるわ」といふなりすぐお帳面をかへて來て正子さんのお隣に坐りました。「裕子さんの遠足の所、見せてね」「え、裕子さんの描いたのは久米川の原つばで皆さんが楽しくお辨當をいたゞいてゐるのです。氣持のよいこの青草の上で照子さんも正子さんも裕子さんもぞんなにか、おいしくおいしくお辨當をいたゞいた事でせうね、三人は竝んで日和ぼつこなしながら順々に頁をくつてゆきました。だん〜にふき出すやうな繪が少くなりましたが、その代りに裕子さんも正子さんも照子さんも繪を見てゐると「あ、さうさう、こんな面白い事をしたのだつた」と古いことが思ひ出されました。

その中に裕子さんのお姉様と動物園へ遊びに行つたキリンを見た繪があつたので裕子さんはこんな事を思ひ出しました。「首の長い〜キリンさん、お首をふりながらのそり〜と自分達の方へやつて來てあまりお話したさうにしてゐたので私はキリンさんと呼んでみたのだけわ。それから象もラクダもゐたしさう〜可愛い小鳥もお猿も見つたわ。又正子さんは海邊で海水着を着て立つてゐる繪を見てゐると正子さんもこんな事を思ひ浮べました。「あの時海の中で鬼ごつこをしたわ、伯父様達と一しよに、さう〜それから砂濱できれいな貝も拾つてね。そしてそれをお家へお土産にして。又照子さんは、お父様やお母様とこ一しよに十五夜のお月見をしてゐる繪を見て照子さんも亦こんな事が思ひ出されました。「座敷でお月様を待つてゐるとまん丸いお月様が出たので私が「出た〜月が」を歌つてゐたらさうしたら丁度お月様が雲に隠れ

てお父様もお母様も大笑したんだつたわ。さうそれから薄を活けてもう一つ――萩も活けて、それからお團子やお芋もお月様に差上げたわ」と一人でいひました。

三人共もつとお帳面をくつてゆきますと今度は運動會のお遊戯やおみこしの繪が出て来ました。又お正月のお飾りをした御門の繪もありました、又豆まきをしてお豆が鬼の體に當つてゐる繪も見ました。そして裕子さんも正子さんも照子さんも楽しい運動會や嬉しいお正月や面白かつた豆まきの夜のことが色々思ひ出されました。

三人は「お繪かきのお帳面つて本當に面白いのね。私達忘れてゐても繪を見るとすぐ楽しい事を思ひ出せるんですもの。」と皆同じやうに云ひました。「私あのお帳面を大事にして小學校に入つても出して見るかも知れないわ。」と照子さんが云ひました。「私大人になつてもおいておくわ。」と正子さんが云ひました。おしまひに裕子さんは「私だつたら、お家のおばあちゃんみたいになつてからでしまつておいて見たいわ」と云ひました。今日は丁度ガカ／＼と暖い日でしたのでお日様に當つていゝ氣持になつてお話してゐると何時の間にか、もうお歸りですよと先生がおつしやつたので照子さんも正子さんも裕子さんも自分のお帳面をお抽出にしまつて歸りました。

### 見えなくなつたお椅子

山本美代子

幼稚園のお部屋にあるお椅子。澤山ありますね。その澤山の中的一个のお椅子が或時ふつと見えなくなりました。元氣なお子さんが皆いらして御自分のお椅子に掛けましたよ、けれど一つ足りませぬね。淳ちやんは、……さう、この淳ちやんつて云ふとて元氣のいゝお坊ちやんのお椅子がなかつたのね。だから淳ちやんはとても困つて、一生懸命さがしました。

『僕のお椅子ない。どこへ行つたんだら。』つて。

オルカンの後へも行つて見ましたよ、流しの下の方もぞきましたよ、誰か間違へたんぢやないかとお友達のを一つ／＼見てまわりましたよ。それでも淳ちやんのはありません。

お友達も皆できがして上げました。先生もおさがしになりました。それでも見つかりません。どうしたんでせうね。でもその日は丁度みどりちやんがお休みでしたので、淳ちやんはみどりちやんのお椅子に腰掛けてゐました。

お歸りになつて皆歸つてしまつてからも、先生はもう一度よおくおさがしになりました。けれどやつぱりありません。先生は餘り、見えなくなつたお椅子の事はかり考へていらつしやいましたので、もう元氣なお子さんたちが歸つてしまつてからのひつそりとしたお部屋で澤山のお椅子さんが、ひそ／＼とお話してゐるのに氣がお付きになりませんでした。

お椅子さんたちは何をお話してゐたのでせう。さう、見えなくなつた一つのお椅子の事をお話してゐたのね。

「あの淳ちやんのお椅子君どうしたんだか知つてる？」「うん、知つてるよ」と淳ちやんのお椅子のすぐ隣りのお椅子が答へまし